

第3号 長岡市・川口町 任意合併協議会だより



●発行/長岡市・川口町任意合併協議会 ●事務局/長岡市幸町2丁目1番1号 長岡市役所40万人都市推進室内

第3回の協議会は、合併効果について協議

特別職や議員など人件費の削減効果は年間約2億円

7月13日、長岡市役所において、「第3回長岡市・川口町任意合併協議会」を開催しました。

今回は、合併に際しての財政の節減や行政サービスの向上、まちづくりの利点などの「合併効果」について検討を行いました。財政の節減効果としては、町長・教育長の廃止や議員・職員の削減などにより、年間約2億円の人件費が削減されると試算しています。

また、えちご川口温泉とホテルサンローラの経営状況が改善し、収支が好転していることを再度確認し、併せて周辺施設も含めた有効的な活用方法などの意見交換を行いました。さらに川口町の地域資源が加わることで、長岡市の魅力向上が期待されることを確認しました。



合併に向けて3つの課題を整理

次回から制度調整の検討に着手

今回の協議会で、飛び地合併や川口町の財政状況、合併効果などの課題についてはほぼ整理ができ、今後はより具体的な協議に進むことを確認しました。

それを踏まえ、次回の協議会では支所や町名・字名の取り扱いなどの合併における基本的な事項のほか、合併後の住民サービスの調整方針など、生活に密着した事項についての検討に着手します。

第3回協議会での主な検討内容

財政の節減効果について

- ・ 職員の削減については、どのように実施するのか。
- ↓ 本庁への事務統合による採用職員の抑制で、20人程度の人件費が削減できる見込みです。
- ・ 支所の人員体制は、どのようになるのか。
- ↓ 管理部門の事務は本庁へ移すため、これまでより職員が減少しますが、証明書の発行や申請などの住民生活に密着した各種手続きは、今までと同様に支所の窓口で行うことができます。

温泉・ホテルなど川口町の施設について

- ・ 温泉やホテルの有効利用を図るためには、地域で活躍している住民などのキーパーソンが必要。
- ・ 施設単体で検討するのではなく広域的な観点も含めて、来訪者がどこに魅力を感じて訪れるのかを整理すれば、さらに運営が良くなると思われる。
- ・ 地元に住んでいる人は、自分たちの地域資源の良さに気づいていない。外から訪れた人のほうが、その価値に気づくことが多い。
- ↓ 長岡市では、「とっておきの長岡まちめぐり」などの事業を実施し、自地域の宝(地域資源)に他地域の人からふれてもらい、新たな活用方法の検討や魅力の発見につなげています。

合併効果について

合併による人件費削減での効果は2億円

年間約2億円の人件費の削減が可能

	削減額(試算)
町長、教育長の廃止 議員の削減	約5,000万円
各種委員の削減 職員20人程度の削減	約1億5,000万円
計	約2億円

※人口規模の近い和島地域(旧和島村)を例に試算

↓川口町の貯金(基金)とともに、新長岡市のまちづくりや借入金返済の財源として活用

行政サービス向上で利便性アップ

- 住民の利便性の向上
 - ・ 利用可能な窓口が増加。
 - ・ 支所では各種証明のほか、戸籍、国民健康保険の手続きなど、生活に密着したほとんどの手続きが可能になる。

行政サービス水準の向上

- ・ 1次・2次合併の旧市町村と同様、長岡市と合併することで、川口町のサービス水準は相対的に上がることが見込まれる。

サービスの高度化

- ・ 長岡市が設置している各行政分野の専門職や、専任組織によるサービスの提供が川口町でも可能になる。

(裏面へ続く)

合併効果について（続き）

新たな資源やパワーが加わることで長岡市の魅力が向上

■川口町の地域資源による長岡市の魅力向上

- ～観光資源や特産品を活かすことで、長岡の情報発信力が強化～
- ・温泉、やな場を含めた新たな観光ルートの開発
- ・川口まつりへの参加やタイアップ（米百俵祭り時代行列、長岡甚句民踊流し など）



川口やな場



川口まつり「武者行列」

■創造的復興の推進

- ～中越地震の震源地と一体となった創造的復興の取り組みが可能に～
- ・中越地震の震源地である川口と長岡（山古志）、小千谷の震災復興における連携
- ・「えちご川口交流ネットREN」をはじめとする川口の市民団体と長岡の復興関連団体との交流



中越大震災の震源地の標柱



二十村郷合同盆踊り大会（山古志地域東竹沢、川口町木沢・荒谷、小千谷市塩谷集落の交流）

■新たな市民力による活力の向上

- ～震災を乗り越えた川口町民の強い市民力と地域力～
- ・木沢集落住民と長岡の子育て世代の活動団体「になニーナ」との交流
- ・大手通りホコ天や長岡市各種イベントでの川口町物産の販売



長岡市の子育て世代の活動団体「になニーナ」と川口町木沢集落の交流



大手通りのホコ天に川口町が出店

■40万人都市の実現に向けた着実な一歩

- ～中越地域全体の発展に向けた地域の一体化や中核市の実現へ前進～

「夢を語ろう！ワークショップ」の参加者募集！

テーマは「合併で生まれる夢・宝物」です。皆さんの自由な意見をお聞かせください。ご参加をお待ちしています。

【日時】 8月7日(金)午後7時～8時30分

【場所】 ながおか市民センター2階 202・203会議室

【定員】 長岡市または川口町在住の方50人（先着）

【申し込み】 8月5日(水)までに電話またはメールで任意合併協議会事務局へお申し込みください。

—第4回任意合併協議会開催のお知らせ—

日時 8月6日(木) 午前9時30分から
場所 長岡市役所6階 第一委員会室

～みなさんも傍聴してみませんか！～

協議会は、どなたでも傍聴できます。傍聴を希望される方は、当日会場で受付をしてください。希望者が多数の場合は、入場を制限させていただくことがあります。

合併後も人が輝き・地域も輝くまちづくりを積極的に実施しています

■一体感の醸成に向けた交流イベントの開催



合併地域が総参加「越後長岡・和太鼓祭」



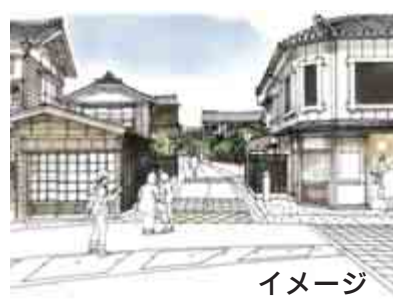
地域の宝を再発見！とっておきの長岡「まちめぐり」（直江家居城「本与板城跡」見学）

■地域住民が主体となったまちづくり

- ～和島地域の良寛ゆかりの「はちすば通り」整備～



住民ワークショップによる「はちすば通り」の整備マップ作成



はちすば通り東側入口（良寛と貞心尼の心を伝えるはちすば通り）

合併に向け住民の相互訪問を実施

- ～住民がお互いのまちを訪ね、合併への理解を深めました～

●長岡市市政モニターが川口町を視察

7月8日、長岡市の市政モニター15人が川口町を訪問しました。川口町の財政状況や地域づくりについて説明を受けた後、温泉やホテルなど観光施設を視察し意見交換を行いました。

～主な意見～

- ・温泉、古民家などは、長岡の情報発信力でその価値が生きてくる。
- ・個別の施設の相乗効果が生まれるようなソフトの仕掛けが必要。
- ・各施設とも地元の農産物を活かしたおいしい食事の提供が必要。
- ・震災体験を集客に活かす工夫を。
- ・飛び地の22kmという距離は、気にならない。



屋内ゲートボール場を見学し、さまざまな利用方法を模索

●川口町民が長岡市役所の支所を訪問し地域の状況を確認

7月9日、川口町の住民14人が長岡市役所小国支所と越路支所を訪問し、支所地域の合併後の現状を確認しました。

～主な意見～

- ・窓口業務などは、現在の川口町役場での業務とほぼ変わらない。
- ・地域が衰退しないように配慮されている。合併後、地域が取り残されないためには、地域力・住民力がカギとなる。
- ・おおむね理解できたが、まだいろいろな不安はある。合併協議会での内容を住民に広く知らせていくことが課題。
- ・長岡市の情報発信力が加わることにより、地域間の交流や観光誘客の促進など地域活性化につながる。
- ・まつりや文化など、相互交流による地域の発展に期待。

長岡市・川口町任意合併協議会事務局

長岡市幸町2丁目1番1号 長岡市役所40万人都市推進室内
TEL：0258-39-2314 FAX：0258-39-2254

協議内容や結果は、ホームページをご覧ください。ご意見・ご質問もお待ちしています。

ホームページ <http://www.nk-gappei.jp/>
Eメール info@nk-gappei.jp

